

表層型

メタンハイドレート 講演会

開催
日時

2025年 **12月25日** 木
13:30 ~ 15:30 (開場13:00)

会場

上越文化会館
上越市新光町1丁目9番10号

参加

先着80名 参加費無料 事前申込

アクセス

車：北陸自動車道上越ICより約5分
電車：えちごトキめき鉄道はなうまライン春日山駅より徒歩4分



講演1 「いよいよメタハイの時代へ 地元でやろう」

講師：国立大学法人 東京海洋大学 特任准教授 青山 千春 氏

講演2 「メタンハイドレート研究における膜構造の利活用」

講師：太陽工業株式会社 川岸 靖 氏

参加申込書

ご参加はFAXか二次元バーコードよりお申込みください。

フリガナ		参加人数	名
お名前		電話番号	
住所	〒		
会社名		役職	
メールアドレス			

●申込締切：2025年12月22日(月)

■申込・問合せ先：表層型メタンハイドレート講演会開催事務局（株式会社新宣内 担当：小嶋）
FAXでお申し込みの方 025-241-0768 スマホでお申し込みの方 ➡



主催：新潟県 後援：上越市



燃える氷



メタンハイドレート

って



知っていますか？

メタンハイドレートとは

メタンハイドレートは、低温・高圧の状態で結晶化した水分子のかごの中にメタン分子が入り込んだもので、一見すると、色が白く、触ると冷たい、氷のような物質です。

氷のように見えるメタンハイドレートに火を近づけると、発生したメタンガスが勢いよく燃えることから、メタンハイドレートは「燃える氷」と呼ばれることがあります。

日本には石油や天然ガス、石炭などのエネルギー資源が少なく、今、私たちが使うエネルギーの90%以上を海外から輸入している状況の中で、メタンハイドレートは、日本の近海に大規模な量が存在すると推定されており、新しいエネルギー資源として注目されています。

また、燃やした時に、地球温暖化の原因となる二酸化炭素や大気汚染物質である窒素酸化物などの排出量が石油や石炭よりも少ない天然ガスは世界的にも需要が伸びています。

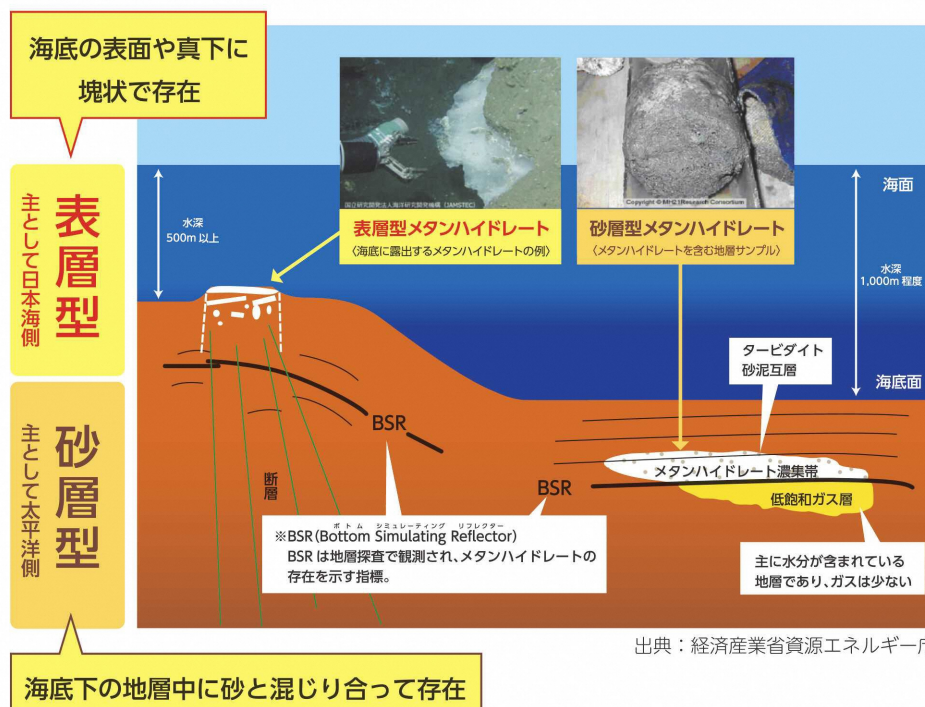
メタンハイドレートの開発は研究段階で、私たちの生活で利用されるようになるまで、まだ時間が必要ですが、国産の次世代エネルギー資源として、その開発を着実に進めていくことが重要です。



出典：メタンハイドレート
資源開発研究コンソーシアム

メタンハイドレートの2つのタイプ

経済産業省によって行われた調査では、日本海側には海底の表面や真下に「表層型」と呼ばれる塊状態のメタンハイドレートが、太平洋側には海底下の地層の中に砂と混じりあった「砂層型」と呼ばれるメタンハイドレートが存在していることが分かっています。



経済産業省が資源量把握のための調査を実施し、その結果、表層型メタンハイドレートの分布が見込まれる構造（ガストムニー構造）が1,742箇所存在することが確認されました。また、そのうちの1箇所（上越沖）のガストムニー構造での推定資源量は、国内の天然ガス消費量の2日分にあたる約6億 m^3 （メタンガス換算値）と試算されました。

現在、経済産業省において、表層型メタンハイドレートの研究開発が進められています。